

令和6年3月31日（通巻第228号）

ボウルズ・ジャパン ブリテン

発行元：認定 NPO 法人ローンボウルズ日本 総務部

一般情報など

(1) 2023 年度 BJ 公認審判員資格試験合格者の発表

2月11日にしあわせの村で開催された関西地区試験および3月17日にYC&ACで開催された関東地区試験の結果、次の通り9名の方が新しくBJ公認審判員として合格されました。

| 地区 | 所属クラブ | 氏名 |
|----|-------------------|--------|
| 関東 | 東京ローンボウリング クラブ | 高山 紗生 |
| | | 小林 麻衣子 |
| | ローンボウルズ東京 | 平井 真理子 |
| | | 松本 幸雄 |
| | YC & AC | 梅田 和彦 |
| | | 安藤 英昭 |
| 関西 | 神戸タッチャーズ | 田中 弘一 |
| | | 緒方 貴玄 |
| | ALBC | 小田 昌 |

(2) World Bowls が IPC（国際パラリンピック委員会）にも加盟申請書を提出

3月8日にWorld Bowls事務局から届いた情報によると、IPCにも加盟申請書を提出したとのこと。ひょっとするとオリンピックよりもパラリンピックの方が先にローンボウルズ種目採用が実現するかもと考えられます。IOC（国際パラリンピック委員会）加盟承認の方は、World Bowlsのメンバー国数を正味の国数として50ヶ国以上に増やすことを推進中でありBowls Asia(アジア・ローンボウルズ連盟)としても現在の加盟国数15を2025年には20以上に増やす（特に中東アジア諸国をターゲットにして）ことを直近の課題として、新しいBowls Asia会長（マレーシア）が熱心に取り組んでいます。

2024年3月の行事、活動などの結果

(1) 2023 年年度アジア選手権大会およびU-25 大会 参加結果

日時：2024年3月2日（土）～11日（月）

場所：タイ・パタヤ 屋外天然芝グリーン(一般)およびインドアカーペット・グリーン (U-25)

参加国数：15ヶ国。日本からは男女あわせて15名の選手団が参加しました。

以下にその結果をお知らせします。

(1-1) 種目別成績(予選ラウンド)

| 男子シングルス予選 | 香港 | インド | スリランカ | 日本 | マカオ | 備考 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| 香港 | | ×15:21 | ×14:21 | ×2:21 | ×8:21 | 出場選手： 小山 潤 (LC 京都) 結果： 決勝進出（2位以内）ならず。 |
| インド | ○21:15 | | ×15:21 | ×18:21 | ×20:21 | |
| スリランカ | ○21:14 | ○21:15 | | ×13:21 | ×8:21 | |
| 日本 | ○21:2 | ○21:18 | ○21:13 | | ×12:21 | |
| マカオ | ○21:8 | ○21:20 | ○21:8 | ○21:12 | | |
| 勝ち点 | 12 | 9 | 6 | 3 | 0 | |
| 総得点 | 84 | 78 | 71 | 54 | 48 | |
| 総失点 | 39 | 74 | 63 | 75 | 84 | |
| 得失点差 | +45 | +4 | +8 | -21 | -36 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | |

| 男子ペアーズ予選 | マレーシア | 香港 | シンガポール | 日本 | 韓国 | 備考 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| マレーシア | | ×13:16 | ○18:14 | ×10:27 | ×6:34 | 出場選手： リード 合田純二(学園ワイズ) スキップ 森 紘一(同上) 結果： 決勝進出（2位以内）ならず。 |
| 香港 | ○16:13 | | ×12:26 | ×14:23 | ×9:28 | |
| シンガポール | ×14:18 | ○26:12 | | ×10:21 | ×8:29 | |
| 日本 | ○27:10 | ○23:14 | ○21:10 | | ×12:14 | |
| 韓国 | ○34:6 | ○28:9 | ○29:8 | ○14:12 | | |
| 勝ち点 | 9 | 9 | 9 | 3 | 0 | |
| 総得点 | 91 | 90 | 80 | 48 | 35 | |
| 総失点 | 47 | 51 | 58 | 83 | 105 | |
| 得失点差 | +44 | +39 | +22 | -35 | -70 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | |

| 男子トリプルス予選 | マレーシア | インド | タイ | シンガポール | 日本 | 備考 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|---|
| マレーシア | | ×16:21 | ×10:12 | ×13:18 | ×9:20 | 出場選手： リード 井上博樹 (LC 京都) カット 廣内鐵也 (同上) スキップ 小山 潤 (同上) 結果： 決勝進出（2位以内）ならず。 |
| インド | ○21:16 | | △15:15 | ×14:15 | ×11:19 | |
| タイ | ○12:10 | △15:15 | | ×9:27 | ○19:9 | |
| シンガポール | ○18:13 | ○15:14 | ○27:9 | | ×12:24 | |
| 日本 | ○20:9 | ○19:11 | ×9:19 | ○24:12 | | |
| 勝ち点 | 12 | 7 | 4 | 3 | 3 | |
| 総得点 | 71 | 65 | 61 | 60 | 51 | |
| 総失点 | 48 | 61 | 55 | 72 | 72 | |
| 得失点差 | +23 | +4 | +6 | -12 | -21 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | |

| 男子フォアス [°] 予選 | マレー シア | インド | フィリ ッピン | シンガ ポール | 日本 | 備考 |
|---------------------------|-----------|--------|------------|------------|-------|--|
| マレーシア | | ×18:21 | ×13:15 | ×5:37 | ×7:24 | 出場選手： リード [°] 井上博樹（LC 京都） セント [°] 廣内鐵也（同上） サド [°] 合田純二（学園ワイズ [°] ） スキップ [°] 森 紘一（同上） 結果： 決勝進出（2位以内）ならず。 不戦敗は選手の1人が熱中症で 倒れたため。 |
| インド | ○21:18 | | ×9:14 | ×13:21 | ×8:22 | |
| フィリッピン | ○15:13 | ○14:9 | | ×11:13 | ×4:23 | |
| シンガポール | ○37:5 | ○21:13 | ○13:11 | | 不戦敗 | |
| 日本 | ○24:7 | ○22:8 | ○23:4 | 不戦勝 | | |
| 勝ち点 | 12 | 9 | 6 | 3 | 0 | |
| 総得点 | 97 | 75 | 58 | 29 | 19 | |
| 総失点 | 43 | 51 | 44 | 71 | 69 | |
| 得失点差 | +54 | +24 | +14 | -42 | -50 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | |

| 女子シングルス 予選 | タイ | マレー シア | 日本 | インド | シンガ ポール | 備考 |
|---------------|--------|-----------|--------|--------|------------|---|
| タイ | | ×18:21 | ×8:21 | ×11:21 | ×1:21 | 出場選手： 松岡 緑（オーストラリア） 結果： 決勝進出（2位以内） ならず。 |
| マレーシア | ○21:18 | | ×9:21 | ×20:21 | ×12:21 | |
| 日本 | ○21:8 | ○21:9 | | ×11:21 | ×16:21 | |
| インド | ○21:11 | ○21:20 | ○21:11 | | ×19:21 | |
| シンガポール | ○21:1 | ○21:12 | ○21:16 | ○21:19 | | |
| 勝ち点 | 12 | 9 | 6 | 3 | 0 | |
| 総得点 | 84 | 81 | 59 | 63 | 48 | |
| 総失点 | 38 | 62 | 69 | 82 | 84 | |
| 得失点差 | +46 | +19 | -10 | -19 | -36 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | |

| 女子ペアス [°] 予選 | インド | 香港 | 日本 | シンガ ポール | 備考 |
|--------------------------|--------|--------|--------|------------|---|
| インド | | ×13:25 | ×17:24 | ×10:16 | 出場選手： リード [°] 合田洋子（学園ワイズ [°] ） スキップ [°] 松岡 緑（オーストラリア） 結果： 決勝進出（2位以内）ならず。 |
| 香港 | ○25:13 | | ×4:41 | ×11:24 | |
| 日本 | ○24:17 | ○41:4 | | ×14:16 | |
| シンガポール | ○16:10 | ○24:11 | ○16:14 | | |
| 勝ち点 | 9 | 6 | 3 | 0 | |
| 総得点 | 65 | 78 | 37 | 35 | |
| 総失点 | 40 | 40 | 79 | 56 | |
| 得失点差 | +25 | +38 | -42 | -21 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | |

| 女子トリプルス予選 | マレーシア | 日本 | 香港 | スリランカ | 備考 |
|-----------|--------|--------|--------|-------|---|
| マレーシア | | ×10:19 | ×12:23 | ×6:33 | 出場選手： リード* 津山元子 (YC&AC) セット* 小林麻衣子 (東京 LBC) スキップ* 高山紗生 (同上) 結果： 決勝進出 (2位以内) 達成!。 |
| 日本 | ○19:10 | | ×12:15 | ×2:41 | |
| 香港 | ○23:12 | ○15:12 | | ×3:55 | |
| スリランカ | ○33:6 | ○41:2 | ○55:3 | | |
| 勝ち点 | 9 | 6 | 3 | 0 | |
| 総得点 | 75 | 66 | 79 | 11 | |
| 総失点 | 28 | 33 | 41 | 129 | |
| 得失点差 | +47 | +33 | +38 | -118 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | |

| 女子フォアース予選 | 日本 | インド | 香港 | スリランカ | 備考 |
|-----------|--------|--------|--------|-------|---|
| 日本 | | ×15:16 | ×10:11 | ×4:29 | 出場選手： リード* 合田洋子 (学園ワイズ*) セット* 津山元子 (YC&AC) サード* 小林麻衣子 (東京 LBC) スキップ* 高山紗生 (同上) 結果： 決勝進出 (2位以内) 達成!。 |
| インド | ○16:15 | | ×11:17 | ×9:31 | |
| 香港 | ○11:10 | ○17:11 | | ×9:32 | |
| スリランカ | ○29:4 | ○31:9 | ○32:9 | | |
| 勝ち点 | 9 | 6 | 3 | 0 | |
| 総得点 | 56 | 63 | 53 | 22 | |
| 総失点 | 29 | 36 | 37 | 92 | |
| 得失点差 | +27 | +27 | +16 | -70 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | |

| U-25 男子シングルス予選 | マレーシア | インド | フィリッピン | 日本 | 備考 |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--|
| マレーシア | | ×10:21 | ×9:21 | ×4:21 | 出場選手： 島 隆叶 (LC 京都) 結果： 対インド戦が惜しかった。 決勝進出 (2位以内) ならず。 |
| インド | ○21:10 | | ×20:21 | ×19:21 | |
| フィリッピン | ○21:9 | ○21:20 | | ×11:21 | |
| 日本 | ○21:4 | ○21:19 | ○21:11 | | |
| 勝ち点 | 9 | 6 | 3 | 0 | |
| 総得点 | 63 | 52 | 50 | 34 | |
| 総失点 | 23 | 60 | 53 | 63 | |
| 得失点差 | +40 | -8 | -3 | -29 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | |

| U-25 女子シ ングルス予選 | タイ | 香港 | フィリ ッピン | 日本 | 備考 |
|--------------------|--------|--------|------------|-------|---|
| タイ | | ×17:20 | ×9:21 | ×3:21 | 出場選手： 島 瑚々奈 (LC 京都) 結果： 決勝進出 (2位以内) ならず。 |
| 香港 | ○20:17 | | ×10:21 | ×7:21 | |
| フィリッピン | ○21:9 | ○21:10 | | ×8:21 | |
| 日本 | ○21:3 | ○21:7 | ○21:8 | | |
| 勝ち点 | 9 | 6 | 3 | 0 | |
| 総得点 | 62 | 59 | 40 | 18 | |
| 総失点 | 29 | 37 | 50 | 63 | |
| 得失点差 | +33 | +22 | -10 | -45 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | |

| U-25 混合ペ アーズ予選 | タイ | 香港 | シンガ ポール | 日本 | 備考 |
|-------------------|--------|--------|------------|--------|--|
| タイ | | ×12:15 | ×16:19 | ×7:34 | 出場選手： リード 島 瑚々奈 (LC 京都) スキップ 島 隆叶 (同上) 結果： 対シンガポール戦が惜しかつた。 決勝進出 (2位以内) ならず。 |
| 香港 | ○15:12 | | ×2:43 | ×3:34 | |
| シンガポール | ○19:16 | ○43:2 | | ×14:16 | |
| 日本 | ○34:7 | ○34:3 | ○16:14 | | |
| 勝ち点 | 9 | 6 | 3 | 0 | |
| 総得点 | 68 | 89 | 34 | 24 | |
| 総失点 | 35 | 20 | 76 | 84 | |
| 得失点差 | +33 | +69 | -42 | -60 | |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | |

(1-2) 決勝トーナメント戦 (ベスト4として準決勝に進出) の結果

| 種目 | 出場選手 | 対戦相手 | 対戦結果 |
|-------------|---|---------------------------|---|
| 女子 トリプルス | リード 津山元子 (YC&AC) セカンド 小林麻衣子 (東京 LBC) スキップ 高山紗生 (同上) | フィリッピン (別予選グループの1位チーム) | 11:15 で惜敗。 3位となり銅メダル獲得 (3位決定戦はないため) |
| 女子 フォアース | リード 合田洋子 (学園ワイズ) セカンド 津山元子 (YC&AC) サード 小林麻衣子 (東京 LBC) スキップ 高山紗生 (同上) | マレーシア (別予選グループの2位チーム) | 12:16 で惜敗。 3位となり銅メダル獲得 (3位決定戦はないため) なお勝ったマレーシアは 決勝戦でもフィリッピン を破り優勝した。 |

(1-3) 概況説明

今回は後述するようかなり過酷な条件下での大会でしたが、それにも拘わらず女子の2種目で目標の予選突破を達成できたことは喜ばしいことでした。表彰台上で銅メダルを胸にし、掲揚される日本国旗を見守っている日本選手の姿は輝いていました。大会状況がどうであったかの概要を以下に紹介します。

過酷な条件（その1）：寒い日本からいきなり30℃超の炎天下で（会場には冷房のある休憩室などはなく、日よけのテントがあるだけ。氷を入れたボックスに飲料水ボトルだけは十分にありましたが。）、1ゲーム2時間15分という日本では経験しないような長時間ゲームを種目によっては1日に3ゲーム戦いました。男子フォアーズでは選手の1人が第2ゲームの終盤で熱中症で倒れてしまい、交替選手は用意していなかったため第3ゲームは不戦敗となってしまいました。さいわいに会場には医療スタッフが配置されていたので大事には至らず、翌日からのゲームには復帰できました。

過酷な条件（その2）：屋外天然芝グリーンは数か月前に出来たばかりという36m長さの12リンクグリーンですが、ペースオブグリーンが9秒から10秒という重いグリーンでした。マットから23m前方のジャックにボウルを届かせるのにわずかに9ないし10秒で届くような早い速度でボウルを転がさないといけないというものです。日頃から人工芝のグリーンやオーストラリアの天然芝のように13秒とか15秒というゆっくりとした速度でボウルを転がしている選手にとっては、投球モーションが違ったものになってしまったようです。香港とかタイ、インドのチームは2か月ほど前に事前にこちらに来て合宿をして調整していったとのこと。その他の国も大会開始の数日前から来場して調整したところがあるようです。さらに、12リンクのそれぞれに極端なラインの違いがあり、ひどいリンクではストレートライン以外ではジャックに寄せられないというような状況もありました。そんな中で、立川の比較的重いグリーンで事前練習を積んできた津山、小林、高山の3選手は苦労はあったもののグリーンの重さには負けることなく、このことが強豪である香港やインドには接戦の上でこれをねじ伏せ、フィリッピンやマレーシアには今一步というところまで追いつめることに繋がったと思われます。スキップ高山選手とバイス・スキップ小林選手が長年の付き合いでチームワークが最高に良かったことも大きかったと思います。

過酷な条件（その3）：ホテルから会場まではバスで40分ほどの距離にあり、この間を毎日100名以上の選手役員が大型バスその他の車で往復するのですが、そのバスが2台しかチャーターしてなくて競技スケジュールに間に合うようにピストン運転するのですが、最初のうちは不慣れもあって混乱がありました。マネジャー役の阿比留さんが連絡調整に奔走していただいたりして後半は落ち着きましたが、大会運営が不慣れなタイ協会によるその他の小トラブルも日本チームとしてのチームワークで乗り越えてきました。

（以上は日本選手団長 森 紘一氏からの報告による）

(1-4) 大会を終えたあとの各選手のふりかえりアンケートのまとめ

（あとの12ページに掲載）

(1-5) 高山紗生選手(メダル獲得チームのスキップ)の感想文

（あとの14ページに掲載）

(1-6) 次回以降のアジア大会の予定

大会期間中の10月9日夜8時からアジアローンボウルズ連盟の役員会が開催されて次の通り決定された。

① 次回のアジア選手権大会およびU-25大会について

*2025年3月～4月にフィリピンのクラーク市（ルソン島内）で開催

天然芝グリーンでペースオブグリーンは13秒程度

数年前に大きな国際大会開催の経験あり

成田空港、関空から直行便あり

詳細日程は、ラマダン（イスラム教の断食期間）を避けることで決まる。

*この大会が2026年世界選手権大会（開催地未定）の予選会を兼ねる。

この大会で3位以内入賞チームと前回（2023年）世界選手権大会で12位以内以内になったチームとが出場権を獲得する。

② 次々回以降のアジア選手権大会およびU-25大会について

*2026年インド・デリー、2027年中国本土（場所未定）

(2) 令和5年度（第7回）BJ理事連絡会（Zoom会議）開催

日時：3月16日（土）20：00～22：00

参加者：理事14名、オブザーバー3名

内容：1）2024年度の行事計画案について各専門部長から口頭説明

1-1) 藤川総務部長

*スポーツ庁ガバナンスコード適合性審査第2回審査への対応

*認定NPO法人資格3回目更新へ向けての書類準備の推進

*理事会、総会、理事連絡会の内容計画と運営管理の推進

*その他対外折衝関係の調整作業

1-2) 吉中広報部長

*SNSへの発信、新聞社などマスメディアへの発信の強化

*のぼり旗掲示による地元へのPRの強化

1-3) 吉中次世代開発部 代表部長

*インドア・マットによる普及活動についての検討

*既存クラブの活動内容を外部に知らせることによる普及推進の検討

*U-25大会の拡充

1-4) 廣内技術・競技部長

*日本選手権大会は現状路線を維持する。

*選手の競技力向上策について新企画を立てる。

1-5) 児島障がい者LB部長

*韓国障がい者ボウルズ団体との交流の促進

*従来からある障がい者関係イベントの活用の継続

*ボッチャとの連携の模索

1-6) 松岡国際部長

*2024 年度アジア大会の計画が決定した。これが 2025 年度世界選手権大会の予選を兼ねるので、より重要である。(本日は松岡部長欠席のため、廣内部長が代弁)

2) 次期 (2025-2029 年度) 5 年計画策定プロジェクトチームの進捗報告

安藤理事、津山理事から次のとおり報告があった。

*ビジョン案を決めた。

*BJ の現状分析をおこない、図 (マインドマップ) にまとめた。

*BJ の現状を、何が原因で何が結果であるかのループ図にまとめた。

その結果、一番の原因 (課題) は「ローンボウルズを楽しむプレイヤーが少ない (増えない) ことにある。」と見当を付けた。

*4 月以降はこの原因 (課題) を深掘りして、解決策を立案する作業に入る。

3) 2023 年度に実施した日本選手権大会の結果から出た課題についての検討依頼

廣内技術・競技部長から上記の課題 (大小合わせて 7 項目) の内容が説明され、各理事からの意見を聴取した上で、2024 年度の方針を確定した。

4) 「日本代表選手選考基準」を個々の大会ごとに作成するに際してのガイドラインについての検討依頼

廣内技術・競技部長からガイドライン A 案、B 案の説明が終わっただけで時間切れとなり、各理事の意見を聴取するまでに至らなかった。従って、別途書面により各理事の意見を技術・競技部長に提出してもらうこととした。

(3) A リーグカップ 2024 年前期大会 (第 5, 6 節)

主催：関西ローンボウルズ協会

主管：A リーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：3 月 3 日 (日)、17 日 (日) 13:00~16:00 3 月 17 日は雨天中止

結果：3 月 3 日終了後の成績。

| | A-1 リーグ | A-2 リーグ |
|-----|---------------------|-------------------|
| 1 位 | 南部貞三 (ゆうゆうクラブ) 54 点 | 旭 吉功 (ALBC) 50 点 |
| 2 位 | 垣内紀子 (ALBC) 49 点 | 合田洋子 (学園ワイズ) 43 点 |
| 3 位 | 長島俊和 (ALBC) 46 点 | 藤川辰美 (学園ワイズ) 37 点 |

(4) M リーグ 2023 年度 後期大会 (第 11, 12 節)

主催：関西 LB 協会 主管：M リーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：3 月 9 日 (土)、27 日 (水) 13:00~16:00

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ、フォアーズ戦を行う。8 エンド戦を 2 ゲーム行う。

競技結果：3 月 27 日終了 (今期はこれで終了) 結果の成績 (出席率 70% 以上が対象)。

| 順位 | 氏名 | 平均ポイント | 合計ポイント | 試合数 |
|----|-----------------|--------|--------|-----|
| 1位 | 八杉 瞳 (兵庫車いす) | 6.000 | 108 | 18 |
| | 中田照男 (神戸タッチャーズ) | 6.000 | 120 | 20 |
| 2位 | 小野宦司 (フリー) | 5.850 | 117 | 20 |
| 3位 | 宮北 茂 (神戸ボウルズ) | 5.556 | 100 | 18 |

(5) 明石公園ジュニア・ローンボウルズ教室 (第17回目) を開講

日時：3月17日(日) 9:30~12:00

場所：明石公園ローンボウルズ場

実施内容：9:30~10:00 実技練習 ジャックおよびボウルの投球練習

10:00~11:00 実技練習 エリミネーターゲームを4エンド実施

11:00~12:00 実技練習 3:4戦を3エンド実施

参加者：受講生7名(小学生4名、中学生2名、高校生1名)

講師：5名(森、長島、関口、藤川、前林)

(6) 2-4-2 ペアーズ大会

主催：関西LB協会

主管：ALBC

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：4月23日(土) 9:00~17:00

結果：天候不順のため中止

(7) BJ レベルアップ講習会 開催

主催：BJ技術・競技部

日時：3月24日(日)、9:30~16:00

場所：しあわせの村ひよどり研修室

内容：9:30~10:00 座学、10:00~12:00 実技

講師：小山 潤(技術・競技部部員)

結果：雨天のため中止

2024年4月の計画、予定

(1) 定期理事会および総会の開催

開催日時：令和4年4月20日（土）13時から17時まで

開催場所：ZOOMによるリモート会議方式

開催内容：

●2023(令和5)年度最終理事会（13時～15時） 議長：児島理事長

出席義務者：理事25名

第1号議案 2023年度事業結果報告書および決算報告書の件

第2号議案 2024年度事業計画書および予算計画書の件

●2023(令和5)年度定期総会（15時～16時） 議長：來田会長

出席義務者：各クラブ代表者14名

第1号議案 2021年度事業結果報告書および決算報告書の件

第2号議案 2022年度事業計画書および予算計画書の件

第3号議案 2023年度の理事の異動の件

●2024(令和6)年度第1回理事会（16時～17時） 議長：児島理事長

出席義務者：理事25名

第1号議案 2025年3月アジア選手権大会出場選手の選考と選手強化の進め方審議の件

第2号議案 次期5ヶ年計画策定中間報告の件

第3号議案 その他

(2) 香港 Yuen Long クラブから27名のボウラーが来日して関西地区ボウラーと対抗戦開催

主催：関西LB協会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：4月6日（土）9:30～16:00 対抗戦、17:00～18:30 懇親夕食会

4月7日（日）9:30～16:00 対抗戦 そのあと表彰式

競技内容：一人2球×12エンド（時間制限90分）のトリプルズ戦を1チームあたり6ゲーム実施し、順位を決定する。

出場は香港9チーム、日本11チームで、日本対香港の対戦を基本とする。

香港チームの宿泊場所：三宮駅前のRemm Plus 神戸三宮ホテル

(3) 男女フリートリプルズ関西選手権大会 兼 地区予選会

主催：関西LB協会

場所：明石市明石公園内ローンボウルズグリーン

日時：4月13日（土）9:00～17:00

(4) 女子ペアーズ関東選手権大会 兼 地区予選会

主催：関東LB協会

場所：立川市昭和記念公園内ローンボウルズグリーン

日時：4月14日（日）9:30～17:00

(5) 神戸市長賞春季大会

主催：関西 LB 協会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：4月28日（日）9:00～17:00

(6) 2024年度インドア・シングルス世界選手権大会

主催：World Bowls および IIBC

場所：英国ガーンジー

日時：4月21日（日）～4月27日（土）

出場選手：男子 佐藤寿治（オーストラリアクラブ）

女子 黒原恵子（オーストラリアクラブ）

(7) SV リーグ 2024 年度 前期大会(第1節)

主催：関西 LB 協会

主管：SV リーグ実行委員会

LC 京都、兵庫車椅子、神戸タッチャーズ

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：4月20日（土）13:00～16:00(12時45分までに受付完了のこと)

競技内容：10チームが参加し、ペアーズ戦を2ゲーム行う。

(8) A リーグカップ 2024 年前期期大会(第5,6節)

主催：関西ローンボウルズ協会

主管：A リーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：4月14日（日）、21日（日）13:00～16:00

参加申込み：誰でも参加できます。参加希望者は当日30分前までに来場し受付に申出る。

(9) M リーグ 2023 年度 後期大会 (第11,12節)

主催：関西 LB 協会 主管：M リーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：4月10日（土）、27日（水）13:00～16:00（12時45分までに受付完了のこと）

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ、
フォアーズ戦を行う。8エンド戦を2ゲーム行う。

参加申込み：事前申込みは不要。当日、会場への来場で可。チーム編成は当日の抽選にて決定。

(10) 明石公園ジュニア・ローンボウルズ教室（第18回）を開講予定

日時：4月21日（日）、9:30～12:00

場所：明石公園ローンボウルズ場

会員からの投稿

第 15 回アジアローンボウルズ選手権大会および第 13 回 U-25 アジア選手権大会の振り返り

松岡 緑 (オーストラリアクラブ)

2024 年 3 月 5 日から 10 日までタイのパタヤで行われたアジア大会を終えてプレイヤーおよびマネージャーからのレポートをまとめた結果です。

参加者：男子シングルス：小山潤

男子ペアズ：合田純二、森紘一

男子トリプルズ：井上博樹、廣内鐵也、小山潤

男子フォーズ：井上博樹、廣内鐵也、合田純二、森紘一

女子シングルス：松岡緑

女子ペアズ：合田洋子、松岡緑

女子トリプルズ：津山元子、小林麻衣子、高山紗生

女子フォーズ：合田洋子、津山元子、小林麻衣子、高山紗生

U-25：島 瑚々奈、島 隆叶

マネージャー：阿比留さゆり、島 美里

競技方式は、各予選グループの上位 2 カ国が決勝トーナメント進出（4 カ国で決勝トーナメントを争う、ただし 3 位決定戦はない）というものであり、したがって決勝トーナメント進出により少なくとも 3 位は確定する。

日本チームは決勝トーナメントに進めたのは女子のトリプルズとフォーズであり、トリプルズは準決勝でフィリピンと、フォーズはマレーシアにあたり、惜しくも敗れたがブロンズメダルを獲得した。

U-25 は昨年が続いて島兄妹が出場し、勝利を挙げることはできなかったが昨年よりは多くの点数を取ることが出来た。

| 予選ラウンド | | | |
|--------|-----|-----|---------|
| 種目 | 勝ち数 | 負け数 | 順位 |
| M1 | 1 | 3 | 4 |
| M2 | 1 | 3 | 4 |
| M3 | 1 | 3 | 5 |
| M4 | 0 | 4 | 5 不戦敗 1 |
| W1 | 2 | 2 | 3 |
| W2 | 1 | 2 | 3 |
| W3 | 2 | 1 | 2 |
| W4 | 3 | 0 | 1 |

今回の評価

今回の評価（大会の振り返り）を 5 項目のアンケート調査で質問した結果のまとめは以下のようになった。（全て 5 段階評価で 5 が最も高く、1 が最も低い）

1) 大会に向けての準備は十分だったか？- 回答平均値は 3.3

ほとんどのプレイヤーが公式練習以前に現地入りできたこと、日本でも練習ができたことで準備への評価は低くはなかった。しかし他の国はもっと早くから事前に現地入りして入念に準備をして

いたことを思うとやはり日本は準備の少なさが伺える。男女では女性の方が準備をよくしていたと評価しており、一方男性ではやや準備不足が伺えた。

2) 自分のパフォーマンスはどうだったか? - 回答平均値は 2.8

グリーンが非常に重たく、中心部では9秒、“ディッチサイド”や“リンク 10”では7秒とワールドボウルの規定以下の重たさであり、グリーンの状態も極めて悪くかなり芝が剥がれている部分があった。事前に合宿をしていた香港、インドはわかっていたようだし、フィリピンも自国のグリーンの状態がかなり悪いので、その点はアドバンテージにはなっただろうが、誰もが苦しい戦いをした試合であった。

3) 体調管理はどうだったか? - 回答平均値は 3.2

高温多湿の環境でグリーン上にはテントしかなく、一日中炎天下にいたため体調管理には注意が必要な環境だった。(U-25 はインドアなので環境は恵まれていた。)

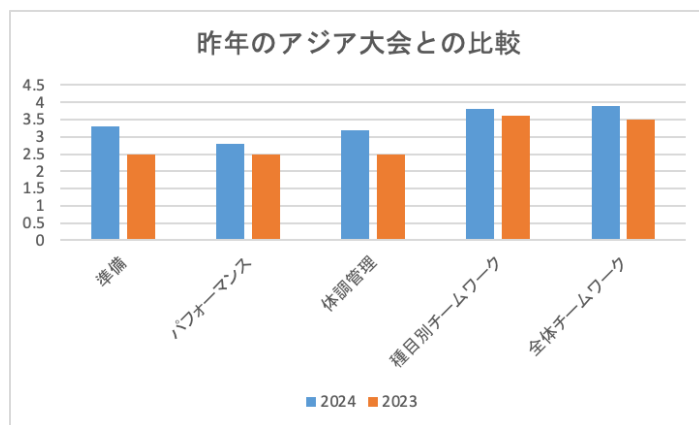
個人の評価にばらつきがあり、体調管理ができなくて自己評価が低かったものが3名(熱射病、腰痛など)、管理がうまくいって体調は特には問題なかったものが6名と両極端の回答であった。

4) チームワークはどうだったか? - 回答平均値は 3.8-3.9

種目別では女子がチームワークを高評価している。このチームワークが結果に繋がったものと思われる。全体的には、今回は食事時間を合わせる、行動を共にする、ラインで情報を逐次共有する、仕事を分担する、などみんなで協力したことがチームワークの改善に繋がった。

昨年との比較

昨年の大会のときのデータと比較すると全ての項目でやや改善がみられ、特に準備とパフォーマンスは



顕著に上がっている。

ただし、今回参加してみて改めて自分の課題を確認できたこと。また練習量が足りないことがわかり、目標として特に「技術の向上」、「練習量を増やす」などが多く挙げられていた。

さらには、大会に参加するということは、チーム一丸となって『目標をきっちり決めて共有すること』。参加するだけでなく、「勝つこと」、「メダルをとることがいかに大事か」の意見も見られた。今後どうするかでは、ナショナルチームを作ってチーム力、技術力をあげる、コーチの必要性、さらにはマネージャーの必要性も挙げられていた。

(以上)

アジアローンボウルズ選手権大会初出場を終えて思うこと

高山 紗生（東京ローンボウリングクラブ）

この度、第15回アジア選手権大会の出場に際し、快く送り出してくださった職場の皆様、応援して下さった方々、日頃からサポートしてくれる家族に感謝申し上げます。

私がローンボウルズと出会ったのは、約20年前のことです。当時、大学生だった私に東京LBC会長の松原敬之氏の弟の松原忍氏から紹介されたことがきっかけでした。当時は、恩師に誘われるがまま練習に参加していた気がします。何度か足を運ぶうちに、クラブの方々との交流が楽しく、また、練習する度にジャックにボールが近づくようになっていき、少しずつ上達していくのが面白かったのを覚えています。

当時から、友人である小林麻衣子とともに練習に参加し、その友人と会えることも練習への動機でした。その後、社会人となり練習する機会は減りましたが、2・3年前より、仕事や結婚の関係で土・日に自分の時間を持つことができ、再びローンボウルズに取り組む時間を設けられたことが、今回アジア選手権大会への参加に繋がったと考えております。

アジア選手権大会に向けて、合同練習を行うことになりました。出場種目がトリプルスとフォースということで、チームワークを高めることが狙いでした。1月から、週1回以上の練習やランチをするなどしてコミュニケーションをとる時間を増やし、ボールの軌道や得意な距離、人柄、組み立て方などを確認していきました。練習や練習試合をするにあたり、東京LBCの松原ご夫婦、YC&ACの伊藤さん、YLBCの依田さんをはじめ、多くの方々が一緒に練習して下さったことにより、今回このような成績を収めることが出来ました。心から感謝申し上げます。

年度末で忙しい中、3月2日の早朝にタイのバンコクに着きました。ホテルへのピックアップバスとなかなか出会うことができず、英語も上手に話せず、不慣れた環境の中で、先着しているチームメイトの津山さんのサポートのもと、どうにかホテルに着くことができ、先発団と合流、ほっとしたのを覚えています。その後、現地で練習を重ね、35度の暑さに慣れ始めた頃、大会を迎えました。私の今回のテーマは『我慢』。苦しい試合が続くと想定できるので、『我慢』する時間が多くなるが、いつかは自分たちの流れがやってきて、その時に得点を重ねる。そして、『実力さえ発揮すれば、仲間がどうかしてくれる』、そう信じて、いかにチームメイトに適度な緊張感の中で実力を発揮してもらおうかを考え、大会に臨んでいました。私、他力本願なのです…。

各試合については、断片的な記憶しか残っていません。ただ、初戦のトリプルスのマレーシア戦で負けはしたものの、リンクコンディションが良くない中で相手も苦しみ、2桁得点を獲得できたことで、『ある程度戦える』と思えたことが大きかったと思います。予想通りその後は、苦しみながら相手へ最小失点の1点で抑え、中盤から後半にかけて自分達の流れになった時に複数得点を重ね、なんとか勝利を収めるという試合ばかりでした。チームメイト全員が調子の良いエンドは決して多くありませんでしたが、ラインやリンクコンディションなどこまめにコミュニケーションを取りながら、互いに助け合え

たことが勝利に繋がりました。

末筆ながら、国際大会初出場で何もわからない私達を多岐に渡り支えてくださった経験豊富な JAPAN 選手たちに心から感謝申し上げます。また、チーム JAPAN のチーム力を高めるために、関西遠征を企画していただきそれに参加できたこと、大会に入ってから気持ちを高揚させるために円陣を組んだこと、試合に集中するために仲間がサポートをしてくれたこと、それらの全てが今回のメダル獲得に繋がりました。今後はこの経験を生かし、自己の技術向上と普及に努めてまいりたいと思います。

(以上)

